

2022年11月の当地公開情報の概要は以下のとおり。

## **1 内政**

### **●ルクセンブルク大公家のアレクサンドラ王女殿下の御婚約（7日付大公宮府コミュニケ等）**

7日、大公宮府は、アンリ大公殿下とマリア・テレザ大公妃殿下の第4子（5人兄弟）であり、唯一の御息女であるアレクサンドラ王女殿下がニコラ・バゴリー氏と御婚約したことを発表した。結婚式は2023年春に行われる。

### **●来年の国民議会選挙の実施日（10月8日）（16日付政府コミュニケ）**

16日、ルクセンブルク政府は、選挙法第134条の規定に基づき、次回の国民議会選挙の期日が2023年10月8日（日）となることを通知した。有権者は、遅くとも5日前までに居住する各市町村から案内を受け取る予定である。

## **2 外政**

### **●イランからの退避勧告（3日付政府コミュニケ）**

3日、イランにおける最新の情勢を鑑み、当国外務省は、ドイツ外務省が発表した渡航勧告に倣い、ルクセンブルク国民に対し、イランからの退避を勧告した。

### **●アセルボーン外相による外交政策演説（8日付政府コミュニケ）**

8日、アセルボーン外相は、国民議会において外交政策演説を行い、ロシアによるウクライナ侵略を受けた欧州及び国際的な主要な課題について言及しつつ、ルクセンブルクの外交政策の主要な方向性や活動概要について説明した。

### **●アセルボーン外相のEU外務理事会出席（15日付政府コミュニケ）**

14日、アセルボーン外相はEU外務理事会に出席し、「女性、平和、安全保障（WPS）に関する結論」の採択の他、ウクライナ、アフリカの大湖地域、西バルカン情勢、イラン情勢、レバノン情勢について議論を行い、デモを行うイランの人々に対する連帯を表明した。

### **●アセルボーン外相の第8回死刑廃止世界会議参加（15日付政府コミュニケ）**

15日、アセルボーン外相は、ベアボック独外相の招待により、死刑廃止連合（ECPM）が主催する第8回死刑廃止世界会議に参加し、「政治的目的のための死刑の道具化」を議題

とした最初の全体会議において、冒頭演説を行った。

**●ポーランドにおけるミサイル事案に対するベッテル首相及びアセルボーン外相の反応（ベッテル首相ツイッター等）**

16日、ベッテル首相はポーランドに落下したミサイルによる犠牲者の遺族への哀悼とポーランドの人々及び政府との連帯を示した。アセルボーン外相は、そもそもこうした事案が発生するのはプーチン露大統領がウクライナに対して残忍な戦争を続けているからであるとの見解を述べた。

**●アウレスク・ルーマニア外相の当国訪問（17日付政府コミュニケ）**

17日、アセルボーン外相は、当国を訪問したアウレスク・ルーマニア外相と二国間会談を行い、良好な二国間関係を確認した上で、デジタル分野における経済関係強化、当国軍のルーマニア配備、ルーマニアのシェンゲン加盟申請への支持、EU拡大、ウクライナ難民、エネルギー等について協議した。

**●ベッテル首相の第18回フランコフォニー・サミット参加（20日付政府コミュニケ）**

19日及び20日、ベッテル首相は、チュニジアのジェルバにおける第18回フランコフォニー国際機構（O I F）サミットに参加し、デジタル化に関する全体会議においてデジタル格差への対応の必要性を訴えた他、複数の国々と二国間協議を行った。

**●ルクセンブルク軍が新たに2つの国際任務に参加（21日付政府コミュニケ）**

2023年以降、ルクセンブルク軍は、北大西洋条約機構（N A T O）の警戒強化活動（e V A）の枠組みにおけるルーマニアのN A T O戦闘群と、ウクライナを支援するためのEU軍事支援ミッション（E U M A Mウクライナ）の2つの新しい国際任務に参加する。

**●アセルボーン外相の第3回モルドバ支援プラットフォーム閣僚級会合出席（21日付政府コミュニケ）**

21日、アセルボーン外相は第3回モルドバ支援プラットフォーム閣僚級会合に出席し、モルドバへの支持を表明した。欧州統合プロセスにおける同国の改革を支援し、公務員研修や技術支援を提供する。さらにN A T O防衛能力構築支援信託基金（D C B）に100万ユーロの援助を決定した。

**●ベッテル首相、欧州議会70周年記念式典に出席（23日付政府コミュニケ）**

22日、ベッテル首相はストラスブールにおいて開催された欧州議会70周年記念式典に出席した。同首相は、メストラ欧州議会議長と会見を行い、ルクセンブルクが70年にわたって欧州議会を受け入れてきたことを誇りに思うと発言した。

●アセルボーン外相、第7回地中海連合（U f M）外相級フォーラム出席（24日付政府コミュニケ）

24日、アセルボーン外相は、バルセロナで開催された第7回地中海連合（U f M）外相級フォーラムに出席し、北マケドニアのU f M加盟、U f Mの若者戦略2030、地中海における移民問題、エルサレムにおける殺人事件等について協議を行った。

●アセルボーン外相のEU司法・内務理事会臨時会合出席（26日付政府コミュニケ）

25日、アセルボーン外相は移民問題に関するEU司法・内務理事会臨時会合に出席し、「EUには、遭難者を救助する義務があり、その後、難民手続きへのアクセスを保証せねばならない。これは欧州法及び国際法上、当然のことである。欧州委員会が提示した行動計画を支持する。負担の公平な分配に代わるものはない。」と述べた。

●ベッテル首相のベネルクスサミット参加（29日付政府コミュニケ）

28日、当国においてベネルクスサミットが開催され、ベッテル首相は、ルッテ蘭首相、ドゥ＝クロー白首相を歓迎した。議長国ルクセンブルクは、パンデミックからの力強い回復、近隣地域とのシナジーの促進、グリーンで安全かつ競争力のあるベネルクスを目指すことを優先課題として掲げた。

●アセルボーン外相のNATO外相会議出席（30日付政府コミュニケ）

29日及び30日、NATO外相会議に出席したアセルボーン外相は、「当国は、エネルギー面においてロシアに依存していたことから教訓を得て、中国への戦略的依存及び脆弱性を減少させ、サプライチェーンの完全性を確保する必要がある。」と述べた。

**3 経済・金融**

○統計

- 2022年10月のインフレ率は、年率6.85%（前月6.88%、前年同月3.62%）（11月7日付国立統計経済研究所（STATEC）プレスリリースより消費者物価指数（IPCN））
- 2022年10月の失業率は4.9%（前月4.9%、前年同月5.3%）（11月24日付国立統計経済研究所（STATEC））

○経済

●当国とフランス間の越境労働者の課税に関する協定調印（7日付政府コミュニケ）

当国とフランスは、越境労働者の中でテレワークが普及していることを鑑み、二国間租税条約に規定される越境労働者の課税について、越境労働者が主たる住居においてテレワー

クした日数を、通常勤務している国の勤務日数とみなすことができる日数を従来の２９日から３４日に引き上げることに同意した。

#### ●バッケス財相のユーログループ会合及びＥＵ財相理事会（ＥＣＯＦＩＮ）出席（８日付政府コミュニケ）

７日及び８日、バッケス財相は、ユーログループ会合及びＥＵ財相理事会（ＥＣＯＦＩＮ）に出席し、悪化するマクロ経済の見通し、不確実性を増す地政学的状況、エネルギー価格の高騰等について協議し、財政の持続可能性を常に確保することの重要性を訴えた。

#### ●天然ガス使用量削減状況（８日付政府コミュニケ）

８日、トーマス・エネルギー相は、ルクセンブルクにおける天然ガス消費量削減に関する進捗報告書を発表した。各月の削減率はそれぞれ８月約３７％、９月約２６％、１０月約３６％であり、現時点では天然ガス消費量１５％削減という目標を達成している。

#### ●ギヨーム皇太子殿下、ファイヨ経済大臣及びレナート保健大臣の米国訪問（８日付政府コミュニケ等）

７日から１１日、ギヨーム皇太子殿下、ファイヨ経済大臣及びレナート保健大臣が米国を訪問し、ボストンにおけるデジタルヘルス・エコシステムの視察等を行った他、ＦＭグローバル社及びアゼンタ社との覚書署名並びにモハメッド国連副事務総長との会談等が行われた。

#### ●鉄鋼大手アルセロール・ミタル社、純利益７８％減（１０日付デラノー紙）

エネルギー危機の影響で、アルセロール・ミタル社は２０２２年第３四半期に７８％の純利益の減少を記録した（前年同期の４６億ドルに対し、９億９３００万ドル）。同社は、生産の脱炭素化に向けた投資を行う戦略を継続する。

#### ●格付機関ＤＢＲＳモーニングスターによる当国の「ＡＡＡ」格付の維持（１２日付政府コミュニケ）

１１日、格付機関ＤＢＲＳモーニングスターは、当国の信用格付をＡＡＡとし、その見通しを安定的とした。

#### ●ファイヨ協力・人道支援相の国民議会演説（１５日付政府コミュニケ）

１５日、ファイヨ協力・人道支援相は、国民議会において開発協力・人道支援政策に関する演説を行い、ウクライナ戦争、食料安全保障、新しい人道支援活動戦略に基づく人道的活動、二国間開発協力、人権問題、非政府開発組織等について言及した。

### **● I C R C のサイバースペース専門事務所の開設（17日付政府コミュニケ）**

17日、赤十字国際委員会（I C R C）及びルクセンブルク外務省協力・人道支援局は、サイバースペースに特化した専門オフィスの開設を発表した。最先端のインフラと安全なエコシステムを備えた新オフィスは、サイバースペースの全側面（技術、政治、運用、法律）に関する研究開発活動の中心地となる。

### **● ウェルフリング環境・気候・持続可能な開発相の国連気候変動枠組み条約第27回締約国会議（COP27）参加（20日付政府コミュニケ）**

国連気候変動枠組み条約第27回締約国会議（COP27）において、当国はロス&ダメージ基金（1000万ユーロ）、ロス&ダメージに関する技術支援を促進する「サンティアゴ・ネットワーク」（500万ユーロ）、気候リスク早期警戒システムイニシアチブ（CREWS）（150万ユーロ）等への拠出を発表した。

### **● ファイヨ経済相の欧州宇宙機関（ESA）閣僚理事会参加（23日付政府コミュニケ等）**

22日及び23日、ファイヨ経済相はESA閣僚理事会に参加した。当国は、2023年から2027年、ESAの様々なプログラムに1億2700万ユーロを拠出する。また今回選出された5人の宇宙飛行士の内、一人はベルギーとルクセンブルクの二重国籍である。

### **● グラメーニャ前財相の欧州安定メカニズム（ESM）事務局長任命（25日付政府コミュニケ）**

25日、ユーロ圏19カ国の財相で構成される欧州安定メカニズム（ESM）理事会は、全会一致でESM新事務局長（任期5年）にグラメーニャ前財相を任命した。

### **● たばこ税の税収が8500万ユーロ増加（25日付RTL）**

当国のたばこ税収は、客年と比較して8500万ユーロ（15%増）増加し、国家予算の5%を占める。ロート（Gilles Roth）国民議会議員（CSV）によれば、タバコ等は物品税で8億ユーロ、付加価値税（VAT）で2億2000万ユーロの税収となる。